

要 旨

1 作成の背景

人口減少・少子高齢化の進展に伴い、福祉・介護人材の不足とともに、社会的孤立・孤独やひきこもりなど、旧来の福祉システムでは対応困難な課題が増大している。一方、情報通信技術、人工知能（AI）、人間拡張技術等のテクノロジーの発展は、人と人のつながり方を含め、私たちの生活や社会全体のあり様を変容させている。これらのテクノロジーの活用により、生活機能やコミュニケーションの障壁を軽減・除去し、多様な生活ニーズをもつ人々の生活の質やウェルビーイングを高めることが期待されている。本報告は、後述する「福祉の価値」と、新たな視点や仕組みによって社会を変えるイノベーションの創発的関係を踏まえ、新たな福祉システムの共創に向けた可能性と課題を問うものである。

2 現状及び問題点

福祉の価値をめぐっては、多様な視点から議論がなされてきた。例えば、「理想的価値」は時代や文化、人の主観に左右されない価値であり、「制度的価値」は、制度や法律、規則、社会的システムに組み込まれている価値である。制度的価値が重視されるのは、社会福祉が社会の価値判断や関心を背景に、その時々で制度・政策を選択してきた歴史があるからである。また、社会福祉実践は、「究極的価値」と「手段的価値」の基盤の上に知識が構築され、それらを活用して多様な実践方法が展開される。他方、イノベーションをめぐっても、経済成長や効率性といった一元的な評価軸から、持続可能性やウェルビーイングへの関心が高まるなかで、環境、経済、社会、多様性、生活の質等を含む多元的な評価軸への発展が認められる。

福祉の価値、及びイノベーションは、このように多様な視点から議論されてきたものの、これまでは両者の関係性が統一的な枠組みで論じられる機会は限定的であった。こうした状況で、例えば先端的テクノロジーが、時として当事者を置き去りにし、新たな差別や排除を生み出すといった、福祉の価値との不整合が生じうる危険性も指摘されている。急速に発展・変化するテクノロジーや社会環境のもとで、多様化、複合化する福祉ニーズに応える福祉システムはどのように創造されうるのか。そのプロセスに、福祉の価値とイノベーションはどのように関与するのか。あるいは、そのプロセスに生じうる課題は何なのか。本報告は、こうした問題関心のもとで、様々な実践分野、政策、理論の枠組みを横断しながら、多層的に展開している福祉の価値とイノベーションの創発の実践と課題を報告する。

3 提案の内容

上記の問題意識を踏まえ、本報告は、福祉の価値とイノベーションの創発が展

開する複数の領域から、福祉システムの構築の可能性と課題について述べる。

第一に、「テクノロジーの活用によるイノベーション」では、イノベーションと福祉社会の関係性の変化について論じた上で、先端的テクノロジーを活用した福祉システム構築の事例を報告する。具体的には、AI の活用による持続可能な社会構想と政策提言の試みや、人に情報技術やロボット技術に基づくシステムが寄り添うことで、人の身体、知覚、認識、コミュニケーション能力の向上を図る人間拡張技術による介護サービスの社会実装の取組を提示する。また、学校に存在するデータから子どもの支援につなげる AI の活用事例を踏まえて、予防的な「福祉と教育」システムの発展可能性について論じる。

第二に、「多様な当事者の参加と包摂によるイノベーション」では、認識論的パートナーとして軽視あるいは排除されてきた多様な当事者の参加と包摂に求められる福祉の価値と、それらに基づく福祉システムの構築を提起する。そこでは、経験専門家である当事者が参画する研究のコ・プロダクションと、その参画を実質化する認識的正義の重要性を示し、相互承認という価値と、支援付き意思決定を含む新しい自立のあり方を、分身ロボット OriHime の研究から言及する。さらに、ジェンダー平等と複合的課題を抱える女性への包括的支援を図る「困難を抱える女性への支援に関する法律」の意義を確認しつつ、さらなる制度的基盤の強化について言及する。また、外国人介護労働者の受け入れに関し、制度的対応にとどまらない、意識改革を含めた多文化共生システムの必要性を議論する。

第三に、「空間・地域・制度のイノベーション」では、地域共生という福祉の価値を体現するまちづくりの観点から、地域コモンズの活用や、縦割り型福祉システムを脱却し、包摂型の福祉システムの構築する上で必要な制度横断的で「民」との協働を可能にするガバナンスについて論じる。

これらの議論からは、人間の尊厳、基本的人権、生活保障、差別や格差の解消といった、理念的、究極的ともいえる伝統的な福祉の価値に加え、持続可能性、人間拡張、予防、当事者性、認識的正義、相互承認、支援付き意思決定、参加、ジェンダー平等、多文化共生、地域共生、地域コモンズ、包摂性、制度横断的ガバナンスといった比較的新しい福祉の価値を読み取ることができる。さらに、現代に求められる福祉の価値である社会正義が、資源配分の公正にとどまらず、個人が尊厳をもって生きる力（ケイパビリティ）の保障、及び差別や排除から自由に承認・参加できる条件の保障を含む多元的概念であることを確認する。その上で、このような新しい社会正義にもとづく福祉システムの創発には、必要な財政措置や人的資源の投入に加え、市民や地域への啓発による福祉の価値の理解と共有が重要である点を指摘する。言うまでもなく、創発は、すべての関与者の共創によってこそ実現可能である。また、その推進においては、共創の仕組みを開発・評価し、実装・普及に向けて、学術が果たす役割がより一層重要となる。